

## ジンコソーラー、Tiger ソーラーパネルが3ヶ月間で出荷量1GW、再びアップグレード

3月9日、太陽光発電業界初のRE100に加盟した太陽光発電企業ジンコソーラー（NYSE: JKS）はTigerシリーズのソーラーパネルを発売して以来、3ヶ月間で出荷量が1GWに達したと発表した。最大出力465WのTigerが、2020年第1四半期に量産を開始しており、今までの量産能力はCheetahに相当する。

ジンコソーラーは2月末のPV EXPO期間中、Tigerシリーズのソーラーパネルの最大出力を再び更新した。TR技術とハーフカット技術が採用された新型Tigerシリーズのソーラーパネルには、最大出力465Wの「Tiger Bifacial」と最大出力475Wの「Tiger Mono-facial」が含まれる。新型Tigerシリーズソーラーパネルは9バスバー技術より、抵抗損失が低減し、出力がアップさせ、465WのTiger Bifacialの変換効率が20.43%、475WのTiger Mono-facialの変換効率が21.16%に達した。1500V耐圧技術により、システムコストの削減を可能にさせる。ジンコソーラーの歴史データから見ると、TRとTR+技術が今まで、同社の量産化を一番速い技術で、これも太陽光発電業界における商業的および経済的価値を持つテクノロジーの1つである。

過去3ヶ月の間に、Tigerシリーズのソーラーパネルの出荷量はすでに1GWを超えた。この点から見ていくと、ジンコソーラーは今後数四半期の業績は例年より優れると予想し、Tigerシリーズのソーラーパネルに関する生産目標は2020年第4四半期に1000万キロワットに達し、同社の通年出荷量の1/3と予想されている。